

バローHD売上高最高

3月期
7599億円、新規出店寄与

バローホールディングスが12日発表した2023年3月期連結決算は、売上高に当たる営業収益が前期比3・7%増の7599億700万円となり、28期連続で過去最高を更新した。スーパーマーケット(SM)、ドラッグストア(DS)両事業の新規出店に加え、ホームセンター(HC)事業の電子商取引(EC)販売の増加が増収に寄与した。一方、水道光熱費や店舗賃料の増加などを理由に営業、経常、純利益は減益となった。

SM事業は、店舗の新設、つて売上高は前期比4・0%とした消費者の生活防衛意生鮮・総菜部門の強化によ%増。ただ、物価高を背景識の高まりや、新型コロナ

ウイルス禍で生じた巣ごもり需要の反動減が影響し、既存店売上高は0・1%減と苦戦した。

DS事業は売り場改装による調剤機能の併設化、新型コロナウイルス関連の行動規制の緩和と感染再拡大の両面で需要を取り込み、既存店売上高は2・9%増と伸長。売上高も5・6%増と好調を保った。

HC事業は、原材料高で来店客数が減少したものの、販売価格の値上げに加え、EC販売が堅調で、売上高は1・6%増。スポーツクラブ事業は4・1%減と落ち込んだ。

損益面は人件費や各事業のエネルギーコスト、HC事業でのキャッシュレス決済手数料が増加した。また、スポーツクラブ店舗の減損処理のため59億3900万円を特別損失に計上。営業、

経常、純利益とも2期連続の減益となった。

店舗網は、SM8店、DS22店など計50店舗を新設し、22店舗を閉鎖。3月末のグループ店舗数は1322。

24年3月期は46店舗の新設を進めるほか、既存店への投資、生産性向上などに取り組み、増収増益を見込む。

役員人事を発表

バローホールディングス(HD)は12日、グループ会社中部フーズの瀧澤直孝社長がHDの取締役就任する6月29日付の役員人事を発表した。

社外取締役は、林美保子氏が退任し、弁護士の下山陽子氏が就任する。